

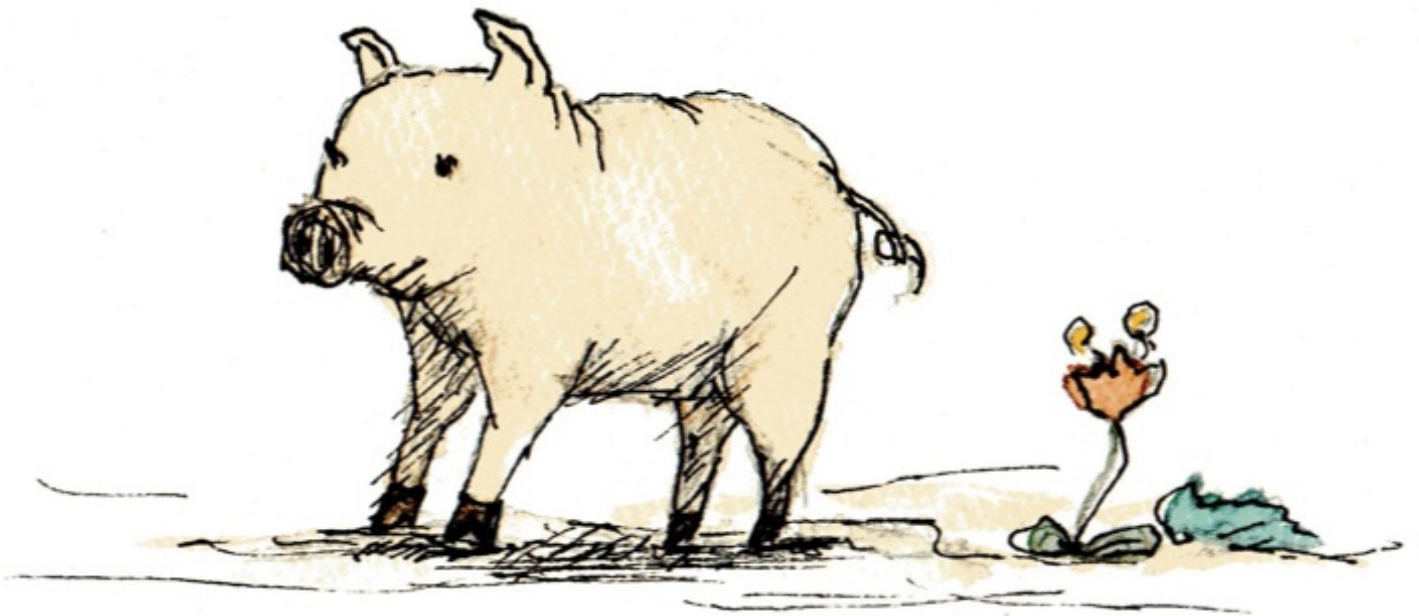


なぞなぞの にわ

ぶん／いえいりあまこ え／はいじ

かおのなかにいる
”ぶた”って、

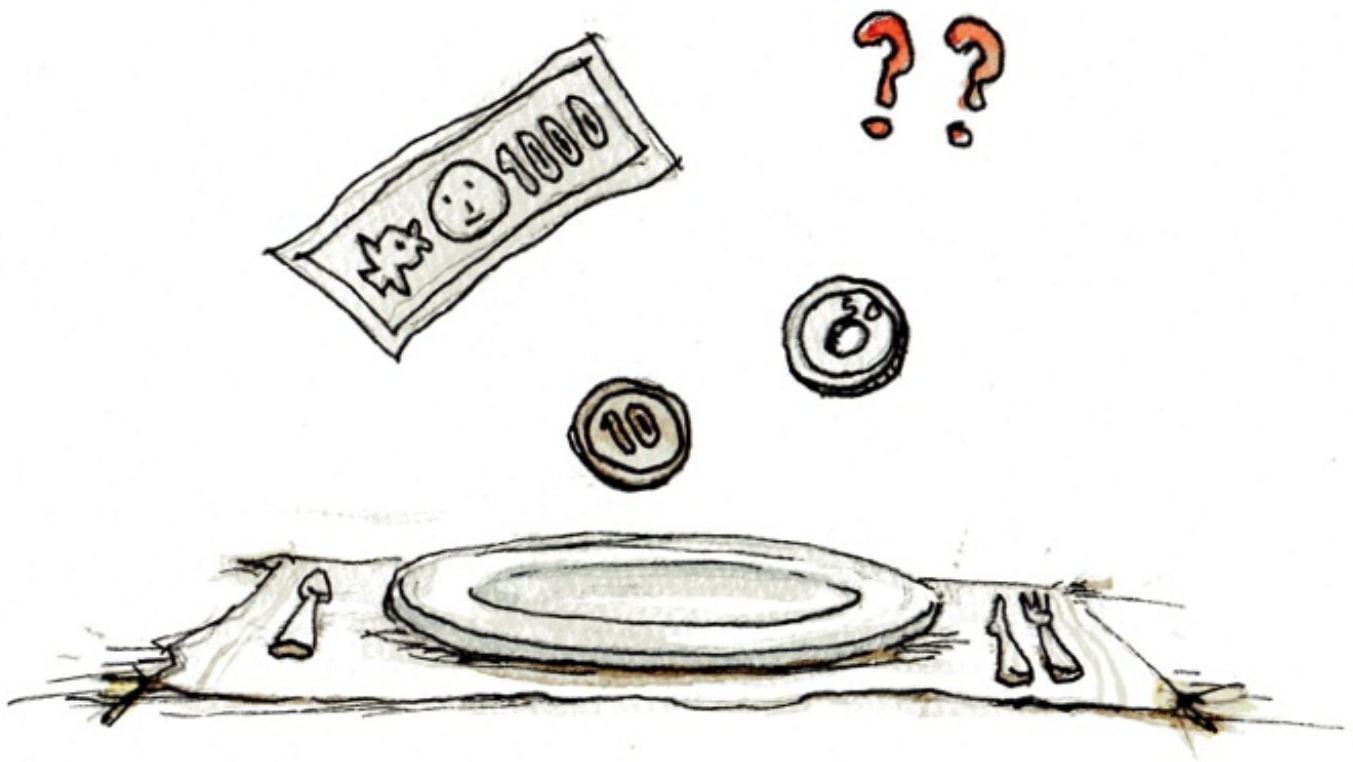
なあに？



(まぶた)

たべるときにいつも
ねだんをまいてしまう
たべものつて

なあに？



(いくら)

みぎてをあげると
ひだりてをあげる
まねっことくいなあまのじゃく

なあに？



(かがみ)

ひっくりかえった
”にわ” にいた
こわーいどうぶつ
なあに？



(わに)

まちあわせのじかんに
いつもはやくついてしまおう
あわてんぼうの ”ま” って

なあに？



(まつ)

くるまのかつてる
”ペット”つて

なあに？



(カーペット)

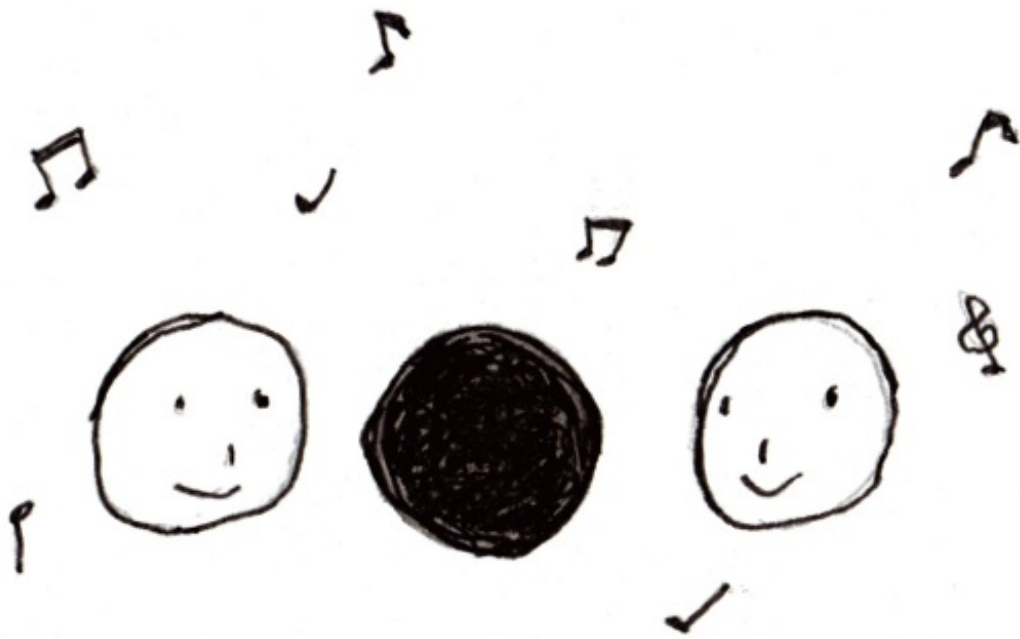
たべると
わらうだしちやうもの
なあに？



(おかし)

ぼくのしろいところと
くろいところをたたくと
きれいなおとがするよ。

ぼくはなあに？



(ピアノ)

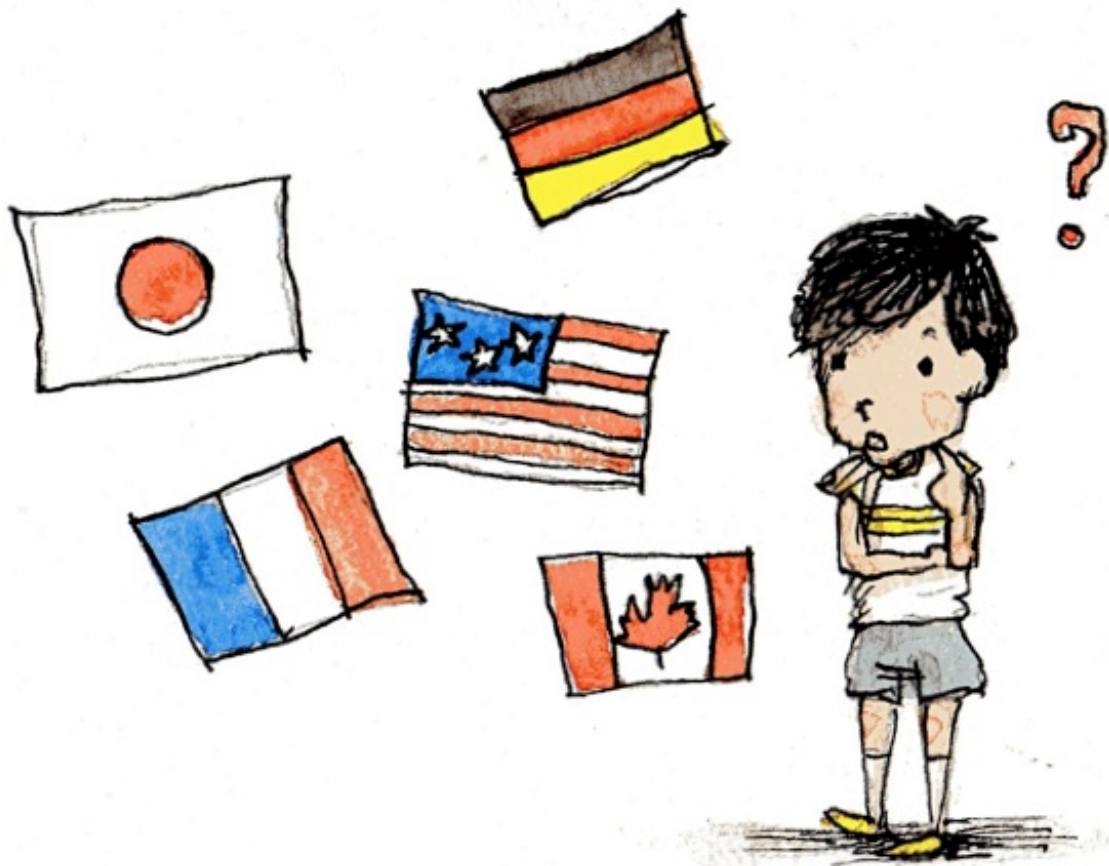
せかいじゅうのくるまを
うごかしているのは

なにじん？



(エンジン)

...どれ？
といつもまかれるくには
どこ？



(ドイツ)

わたしのなのに、
”かれのど”と
いわれるものって

なあに？



(カレンダー)

けがをしたときにつかる
”そうこ” って

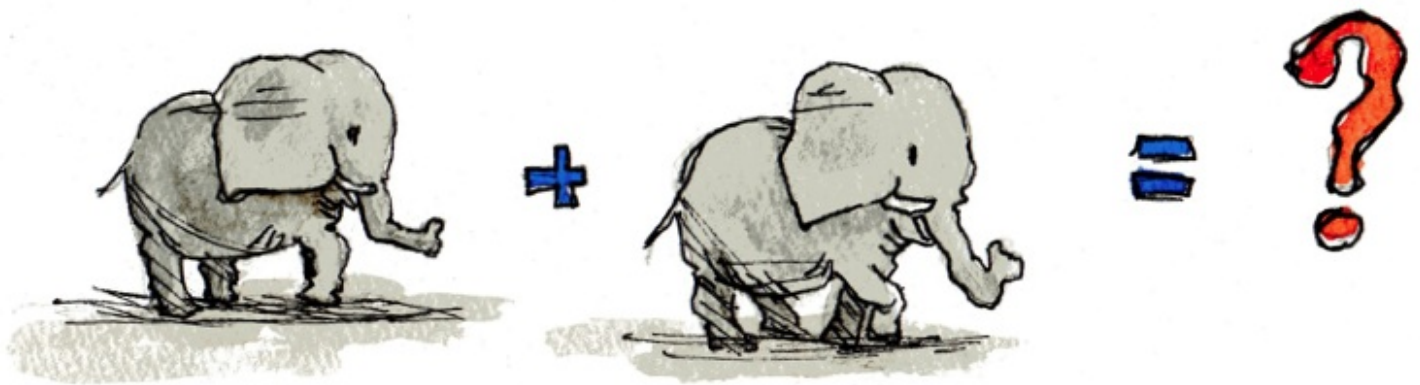
なあに？



(ばんそうこう)

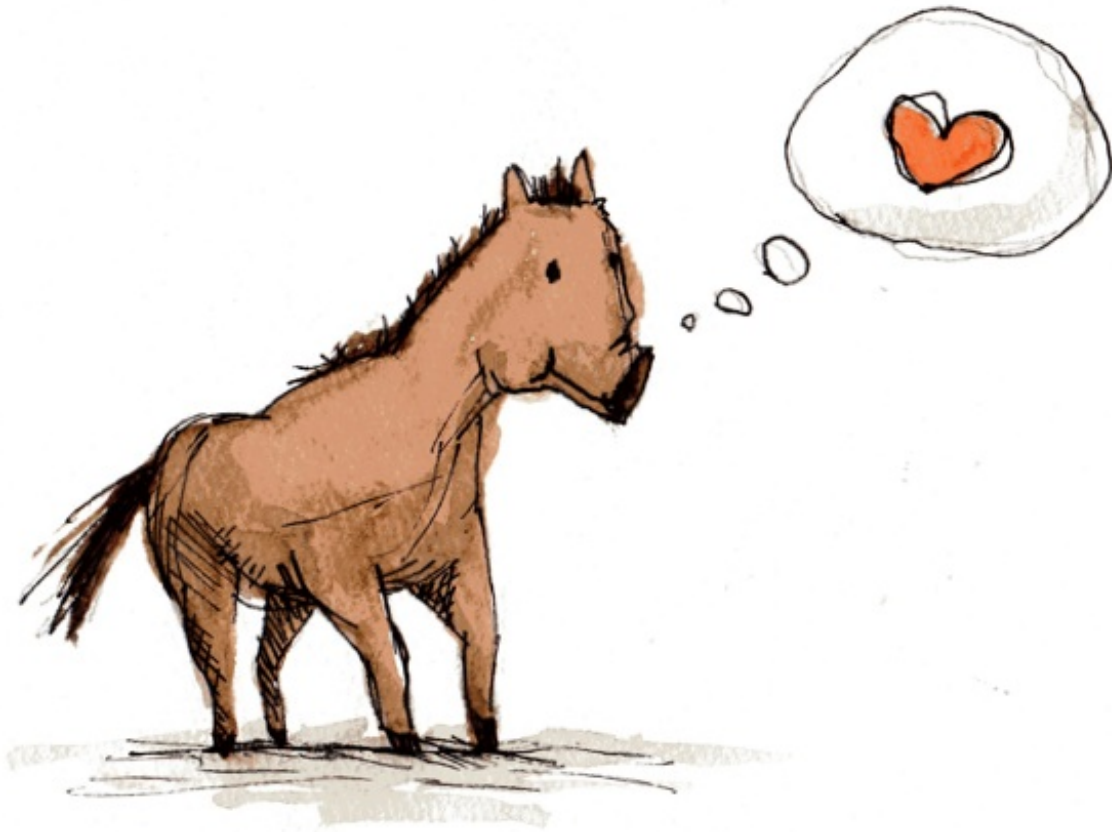
ぞうを2とぞうあつめてつくる
おいしいたべもの

なあに？



(ぞうに)

せかいじゅうの
”うま”が
だいすきなのは
なにじん？



(にんじん)

めのまえにいても
”いるの?”ときかれる
うみのどうぶつ

なあに？



(イルカ)

どんなにきらいでも
”すま”
つていっちゃんスポーツ
なあに？



(スキー)

さかぶちすると
まかいになるどうぶつ

なあに？



(かめ)



ねるときのじゃまもの
なあに？

(パジャマ)

おうちの方へ。

”なぞなぞのにわ”をご覧下さってありがとうございました。

今回のこの絵本は、先日の東日本大地震を受け、避難所での生活を余儀なくされている被災地の子供達や、大人と同じ様にあの日以来、何となく漠然とした不安を感じている日本の子供達に、少しでも”遊び”の時間を作ってあげたいという思いから制作を始めました。

以前どこかで聞いた話によると子供は、周囲に遊び道具も、遊び相手もない場所にぽんと放り出されたとき、一体何を始めるかということ、とりあえずぐるぐる、その場で回りだすんだそうです。ただ、回る。それだけで楽しい。身近に小さなお子さんのいらっしゃる方は、そんな子供の不可解な、でもとても単純な無意識の行動が、容易に想像できるのではないのでしょうか。

退屈な授業中の手遊びや足遊び、空想上の友達とのごっこ遊び、下校中に自分に課す、”次の電信柱まで息止められたら勝ち”遊び（やりませんでしたか）。何もないところから遊びを見出す子供の本能的な行動は、そもそもは動物として自然の中に生きながらも、様々な建造物や文化を築き上げて来た人類の行動の原点なのだと思います。

特に戦後生まれの私達はこれまで、社会活動においては”0”を”1”にすることよりも、”1”を”100”にする、そのための方法をたくさん教わってきました。けれども、2011年3月11日を境に、日本では膨大な量の”0”がうまれてしまい、また幸いにも残った”100”のもの達ですら、ともすればマイナスにもなり得るリスクを伴うものだったという事実にも直面させられました。それを再び、”1”にして、さらに”100”にするまでには、子供達の世代にも及ぶ長い時間と、また、これまでとは違う新しい発想とが必要となると思われます。

なぞなぞは、いたって古典的で、単純な遊びではありますが、一語の単語の中に新しい言葉を見つけたり（ぼうしの中にいる動物は？）、物体を擬人化してみたり（赤、黄、青の三つ目の一本足はなあに？）、ただそこにある一つの物を多面的に捉え、分析しなければ答えにたどり着きません。さらには出題が単純であるが故に、突き詰めて考えると例外やこじつけも少なくないので、答えです、と出されたものに、いまいち納得できないこともままあります。そういう理由で、実のところ私は子供の頃なぞなぞがあまり好きではなかったのですが、大人になってみるとそれはそれでいいのだと思うのです。どうしてそれが答えとして認められないのかを考えることに意味があり、出題する大人を説き伏せられるだけの説明が出来れば尚良い。なぞなぞあそびを通して、子供は沢山の思考の訓練を積むことができますし、また何よりも、なぞなぞを大人が

出題することによって子供は、大人の目が間違いなく自分に向いているという精神的な安心感を得ることができます。

東日本では未だ余震も続いており、それまでと変わらない生活をしようとどんなに心がけていても、ふとどうしようもない不安感に襲われることが日常的にあります。そんな大人の心情を、子供達は何を言わなくても、側で敏感に感じ取っているのだらうと思います。

どうかそんなとき、このなぞなぞ絵本が、ほんの少しでも皆さんのお役に立てばと思います。今後も定期的に問題を増やしていく予定ですので、身近なお子さんと楽しんで頂ければ幸いです。

ありがとうございました。

家入 明子